

令和4年度生野区区政会議 第1回全体会

1 開催日時

令和4年6月14日（火） 19時00分～21時07分

2 開催場所

生野区役所6階大会議室

3 出席者

（区政会議委員）25名

三木委員、船方委員、宮崎委員、川本委員、池原委員、加藤委員、永松委員、大倉委員、小出委員、橋野委員、藪本委員、山崎委員、古本委員、北口（英）委員、柴田委員、大藤委員、北口（充）委員、三浦委員、川口委員、塚本委員、廣川委員、洪委員、川中委員、山納委員、森本委員

（大阪市議会議員）4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（その他関係者）5名

多田様、田中様、和田様、新井様、伊藤様

（生野区役所）18名

筋原生野区長、櫻井副区長、上原こども未来担当部長（教育委員会事務局兼務）、小原企画総務課長、杉本区政推進担当課長、上田企画総務課長代理、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、松村安心まちづくり担当課長、堀川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、三根生こども未来担当課長（教育委員会事務局兼務）、竹中地域まちづくり課地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理、宮城窓口サービス課長、山崎保険年金担当課長、谷上保健福祉課長、清水地域福祉推進担当課長、長田生活支援担当課長、林都市整備局生野南部事務所長

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和3年度生野区の取組みの振り返りについて

資料1 令和3年度の生野区取組み振り返りについて

参考資料1 いただいたご質問と区の考え方

（2）各部会報告について

資料2 令和4年度第1回 各部会からの報告について

（3）生野区将来ビジョンの振り返りと方向性について

資料3 生野区将来ビジョンの振り返りと今後の方向性

（4）その他

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから令和4年度第1回生野区区政会議全体会を始めさせていただきます。

本日は、ご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。私、事務局の生野区役所企画総務課杉本と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくをお願いします。

まず初めに、本日の出席状況、傍聴及び会議運営、会議録の作成についてご報告させていただきます。

本日の会議は、委員定数30名に対しまして22名のご出席があり、定数の2分の1以上の出席にて、有効に成立してございます。また、本日の傍聴者はゼロ名となっております。

続きまして、条例第8条第1項に基づく市議員の皆様のご出席について、50音順でご報告申し上げます。

木下誠議員です。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○杉本区政推進担当課長

武直樹議員です。

○武議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○杉本区政推進担当課長

山田正和議員です。

○山田議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく関係者といたしまして、歴代の議長等を務められました皆様のご出席についてご報告申し上げます。

多田龍弘様です。

○多田様

こんばんは。

○杉本区政推進担当課長

田中照章様です。

○田中様

こんばんは。よろしくお願いします。

○杉本区政推進担当課長

和田友祐様です。

○和田様

こんばんは。

○杉本区政推進担当課長
新井光淑様です。

○新井様
こんばんは。

○杉本区政推進担当課長
伊藤廣美様です。

○伊藤様
こんばんは。

○杉本区政推進担当課長
以上でございます。

なお、区政会議に関する本市の規則によりまして、出席されました方のお名前、発言内容等が公開されます。後日、事務局において会議録を作成いたしまして、区役所のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影についてご了承のほど、お願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。

まず、本日の区政会議全体会では、主に昨年度の生野区の取組を振り返り、その評価や課題について、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えてございます。

続きまして、本日の資料についてご説明を申し上げます。左肩に当日用とございます令和4年度第1回生野区区政会議全体会の次第をご覧ください。本日の会議資料を記載してございます。資料がおそろいでない場合は、お手を挙げていただければ事務局からお持ちいたします。まず、資料1といたしまして、こちらは事前に送付してございます令和3年度生野区の取組についてという、A4横のパワーポイントの資料がございます。次に、本日配付の資料が幾つかございます。まず、参考資料1としまして、このたび委員からいただいたご質問と区の考え方がございます。続きまして、資料2としまして、令和4年度第1回各部会からの報告についてがございます。こちらは先日行われました各部会における委員の皆様からの主な意見を抜粋したもので、併せてそれぞれ区の考え方も横に追記してございます。ほかにもオブザーバーの委員の方も含めて、委員の皆様からたくさんのご意見いただいておりますが、詳細は後日議事録として整理の上、皆様に送付させていただきたいと思っております。また、次第には記載ございませんが、まちの未来部会でファシリテーターを務めていただいた山納委員が策定いただいた議事メモを参考でお配りしてございます。そして、資料3といたしまして、生野区将来ビジョンの振り返りと今後の方向性がございます。最後に、こちらも次第には記載ございませんが、生野区区政会議年間基本スケジュールがございます。資料は以上となっております。

それでは、これからの進行は三木議長のほうに、よろしく申し上げます。

○三木議長
皆さん、こんばんは。議長の三木です。

ただいまから、令和4年度第1回区政会議を開催します。

区政会議は区民が主役として地域運営に当たるために、地域の課題解決のためど

う取り組むべきか、また課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何なのかを建設的に提案する、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆様個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って意見交換し、議論を深めるという姿勢で積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、開催に当たり筋原区長からご挨拶をお願いいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原でございます。本日は、お仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、また足元のお悪い中、お集まりをいただきまして、生野区の区政会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

先日からの開催の区政会議の各部会には、ご参加をいただき誠にありがとうございます。どの部会におきましても大変熱心な意見交換をいただきまして、皆様方の生野区に対する大変熱い思いを実感いたしました次第でございます。委員の皆様方には部会同様に、本日も忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げます。皆様からいただきましたご意見を区政のほうに活かしてまいりまして、よりよい区政をつくりあげてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。本日どうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございます。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは、議事に入ります。

お手元の会議次第に沿いまして、議事1、令和3年度生野区の取組の振り返りについて及び議事3、生野区将来ビジョンの振り返りと方向性について。区役所からの説明の後に続けて、議事2、部会報告について。先日行われた3つの部会から報告に入ります。報告の順番は部会の開催日順で、くらしの安全・安心部会、こどもの未来部会、まちの未来部会の順にお願いします。

それではまず、区役所からの説明をお願いします。

○上田企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。生野区役所企画総務課課長代理の上田と申します。着座にて失礼いたします。

これから、令和3年度運営方針の主な取組の振り返りについてご説明をいたします。まず初めに、防災に関する取組についてでございます。コロナの感染拡大に伴いまして、人が集まるような会議であったり研修というのは十分に行うことができませんでした。そこで、区防災マップの更新版の全戸配布やウェブ版の防災・水害ハザードマップの改修、災害時の避難に関する啓発など、防災意識の向上に向けた取組を進めてまいりました。今年1月には、株式会社永晃様と協定を締結し、災害時には生野区内にあるFIVE HOTEL OSAKAへの宿泊、入浴及び食事の提供等にご協力いただけることとなっております。

続いて、防犯対策についてですが、コロナが少し落ち着いた10月に区民の皆様と共同で区内一斉パトロールを開催いたしました。そのほか、防犯カメラを区内各所に30台新たに設置し、街頭犯罪の抑止に努めました。

続いて、事故の防止についてでございます。自転車マナーに関するYouTube動画

を作成し、インターネットで公開するほか、区役所1階で繰り返し放送して、自転車マナーの向上に取り組んでおります。

続いて、真に支援が必要な方への取組でございます。少子高齢化や核家族化が進む中、高齢者、障がい者、こども、ひとり親家庭、生活困窮者など、真に支援が必要な方に必要なサービスが確実に届き、取りこぼしのない支援が行えるように様々な取組を進めております。そのうち、子育て支援の取組の1つであるこども地域包括ケアシステムでは、昨年度福祉コーディネーターとのつながりを深め、地域にある子育て相談や気づきなどの情報収集に努めました。また、区内3地域をモデル地域として、子育て宣言の具体化に向けた取組を進めています。

次に、人権についての取組ですが、人権週間啓発事業として従来人が集まって開催していた講演会に変えて、生野区出身のはなし家さん、笑福亭呂翔さんの落語による人権啓発動画を作成し、インターネットで公開しています。ほかにもより多くの方に情報が届くように、今年2月から生活に必要な情報をピックアップして、やさしい日本語でお伝えするやさしいNEWSを月2回程度発信するなどの工夫に努めてまいりました。

続いて、子育て関連の取組についてです。密を避けるための屋外の楽しめるイベントとして、親子で区内を巡るいくのっ子スタンプラリーを昨年10月に実施し、約900名の方にご参加いただきました。ほかにも、子育て世帯の方々が子育て支援施設を利用してもらうきっかけになればと考え、子育て支援センターやつどいの広場の保育士さんたちと共同で作成、配布している生野区絵本ダイアリーいくみんのほんだなを今年3月に改訂しました。今後とも、各種団体や施設の皆様と協力して子育ての孤立化を防ぎ、地域全体で子育てをサポートできるような取組を進めてまいります。

続きまして、次世代の学校づくりとして、学校配置の見直しでございます。これまで生野区西部地域学校再編整備計画に基づきまして、再編整備を進めてきましたが、今年4月には田島南小中一貫校と、小中一貫校大池学園、大阪市初の義務教育学校となる生野未来学園が開校いたしました。また、北鶴橋小学校、鶴橋小学校を令和8年4月に再編するための学校再編整備計画を策定しましたが、今後、保護者、地域住民の代表の方からご意見をいただく場として、学校適正配置検討会議を開催し、取組を進めてまいります。

次に、生野の教育の実現についてです。民間事業者等を活用した課外授業、いくの塾は区内にお住まいの方で、大阪市立中学校に在籍する生徒を対象にしており、昨年度は39名の方が受講されました。受講者の声としては、学校の授業が分かるようになったなどの声が聞かれました。ほかにも、生きる力を育む課外授業のみらい塾には、68名の方が受講されました。受講者からは楽しく勉強ができた、テストの点数が上がったなどの声が聞かれました。今、ご説明させていただきました2つの課外授業は、学習習慣の定着や基礎学力の向上を目的としている部分が共通するものであり、類似する事業であることから、令和4年度からはいくの塾に統合して実施をしております。

次に、空き家の利活用の取組ですが、空き家等の所有者向けの空き家・空きスペ

ース利活用セミナーのオンライン開催や生野区空き家活用プロジェクト運営委員会と共催事業、生野空き家シンポジウムを開催いたしました。

次に、学校跡地を核としたまちの活性化の取組でございます。昨年3月で閉校となった御幸森小学校跡地活用について、株式会社RETOWNさんと共同事業者のNPO法人IKUNO・多文化ふらっとさんを事業者を選定し、学校跡地活用に向けた準備が現在進められているところでございます。生野小学校、生野南小学校、林寺小学校におきましても、今年度中の事業者選定を行う予定となっております。また、舍利寺小学校についても、これから地域の方々と跡地活用に関して意見交換を行い、事業者公募に向けた取組を進めてまいります。

次に、持続可能な地域公共交通の推進についてです。オンデマンドバスの社会実験が昨年3月から区内西部エリアのみで開始され、12月には区内全域で運行が拡大されることになりました。利用者数も徐々に増えており、社会実験も来年3月末まで1年間延長されることとなりました。当区としても、この社会実験の成功が交通不便地域の解消にもつながるものと考えており、大阪メトログループと連携して認知度の向上に向けて広報等に取り組んでまいります。

最後に、生野の魅力の発掘浸透の取組でございます。事業連携協定企業と共同でスマートフォンを使った花と緑のフォトコンテストを9月に実施しました。コロナ禍で直接会うことが難しい時期でも、花や緑を通じて交流を図っていただけるように、今回取り組んできたところでございます。

簡単ではございますが、以上が昨年度の主な取組についてのご紹介となります。

続けて、今ご説明いたしました運営方針の延長にある将来ビジョンについて、少し触れさせていただきたいと思っております。前のスクリーンのほうにも投映させていただいておりますが、お手元の本日配付資料、A4の横の資料で、資料3と書かれた生野区将来ビジョンの振り返りと今後の方向性をご覧ください。

1枚めくっていただいた1ページ目ですが、現行の大阪市の区政運営の体制になってから、各区で区長マネジメントの区の目指す将来像ビジョンを定めて取り組んでいます。先ほどご説明いたしました区の取組についても、全て区の目指すビジョンに向けて毎年取り組んできたものです。現行の生野区将来ビジョンは、平成29年度に改定いたしました。既に改定から4年が経過しておりますので、その後の社会情勢や法制度などの区政を取り巻く状況も変化してきております。そのため、令和5年度からの新たなビジョンに向けての準備が進められているところでございます。

次に、2ページ目からですが、こちらのほうは先ほどご説明いたしました運営方針の振り返りと内容が重複する部分もありますので、ご説明は割愛させていただきますが、この4年間の生野区の主な取組内容や引き続きの課題、併せて関連する指標の推移を記載しております。また、ご一読いただければと思います。これらは、毎年区政会議にて振り返りながら取り組んできたものとなっております。

次に、少しページが飛びますが、21ページをご覧ください。次の生野区将来ビジョンの改定に向けての新たな課題や今後の方向性について、現時点で想定しているものを少しご紹介させていただきます。次のビジョンを考えるに当

たって、これまでの取組と継続課題をしっかりと踏まえつつ、新たな問題、課題にも目を向け対応していく必要があります。1つ目に、今後も全国同様、生野区も例外なく少子高齢化、人口減少、労働力不足が急速に進行していくことが想定されます。2つ目に、社会的なパンデミックになった新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの生活様式を大きく変化させるものとなりました。今後はコロナとの共存、そしてコロナ後を見据えた取組が求められます。3つ目が、これまで以上に行政だけでは対応できない複雑な課題が出てくることが想定されることから、より一層公民連携を推進していく必要があると考えられます。4つ目に、DXと言われるデジタルトランスフォーメーションは様々な分野で進められているものですが、行政分野としてはやはり住民の皆様の生活の質の向上に向けて、デジタル技術を活用していく必要があります。次に、5つ目ですが、今やよく知られている国連のSDGsです。生野区の取組は、全てこのSDGsのいずれかの目標につながっております。最後、6つ目になりますが、大阪・関西万博の開催は大阪、関西だけではなく、一行政区である生野区にとっても大きな契機、チャンスとなります。ある意味、バーチャルな万博に続いて、生野区ではリアルな60か国の生活、文化に触れることができます。コロナを乗り越え、万博の人の流れをどう受け止められるか、とても大きなチャンスと考えております。

最後となりますが、生野区の将来像として方向性をどう定めていこうかということで、現行の将来ビジョンに掲げる将来像である「居場所」と「持ち場」のあるまちへに向けて、どのようなまちづくりのアプローチがいいのかについて、次の22ページをご覧ください。こちらはまちづくりを家づくりに例えたイメージ図です。まず、安全・安心といった基礎の部分の部分がしっかりしていないといけません。ただ、それだけの平家ではなく、次に、産業の振興が必要になってきます。産業が活性化することでまちが潤い、人やお金といった資源が循環していきます。その上で、地域福祉や教育といった具体的な施策をより効果的に進めていくことで、より持続可能なまちづくりへとつながっていくものと考えております。

以上、これから区の将来に向けて考えていく内容の一部を紹介いたしました。秋に開催予定の区政会議では、もう少し具体的な内容をお示しできればと考えておりますので、その際には、委員の皆様からもご意見を頂戴したいと考えております。説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは、続いて、各部会からの報告をお願いします。

それではまず、くらしの安全・安心部会から、川中委員より報告お願いいたします。

○川中委員

それでは、議長からのご指名でございますので、私、川中より第1回くらしの安全・安心部会の報告をさせていただきます。5月31日にワークショップ形式にて実施をいたしました。ご参加いただいた委員の皆様につきましては、改めて熱心なご議論いただきましたことをお礼申し上げます。

資料2では主立った意見が掲載されておりますけれども、限られた報告の時間ですので、概要につきまして今からご報告させていただきます。詳細につきましては、資料をご清覧ください。

こちらのくらしの安全・安心部会ですけれども、3つのテーマについて議論をすることとなりました。1つ目が防災、防犯ということに関するものです。こちらにつきましては、コロナ禍の中で、防災訓練等ができていないということから生じている課題が幾つか指摘されました。防災訓練ができていない間に進んでいるような学校の再編の話であるとか、あるいは多文化が進んでいる話とか、そういったところに対応が十分できていないというところで、これからそれにどのように向かい合っていくのかということが考える必要があるということが指摘されました。また、こうした防災、防犯に関する取組で、担い手の方が特定の方に偏ってしまいますと、その活動の広がりが限られてくる場所があるだろうというところがありますので、より幅広い方々の参画を得る必要があるのではないかと指摘がございました。

防犯ということにつきましては、高齢者の方々の社会的な孤立をどう防ぐのかということが指摘されることとなりました。こちらは2つ目のテーマであります地域福祉とも関係するところがございます。この高齢者の方々の社会的孤立を防ぐためには、地域組織、地域活動というものが重要となってくるということが改めて確認をされつつ、同時に、地域の参加をどのように推進していくのかというところで、より一層の取組が必要ではないかということが指摘されました。また、先ほどの全体でのご報告でもありましたけれども、自転車の乗り方や道の歩き方等に関する啓発も、より積極的に取り組んでいく必要があるだろうということも述べられました。

最後、3つ目のテーマですけれども、人権・多文化共生について話し合われました。多文化化が一層進んでいるという中におきまして、地域の中の情報の共有であるとか、地域の人々同士でのコミュニケーション、これを進めていく上での課題があるのではないかと指摘されております。行政情報は、やさしい日本語によって大分共有が進んでいっているところかと思っておりますけれども、地域の中の情報となりますと、まだまだこれからより充実させていく必要があるだろうということです。また、多文化化が進む中で、相互理解をどのように進めていくのかといった課題も指摘されました。具体的には、地域活動や地域の行事等に参加をしていくことを促進する、あるいは区内の高校と連携した取組などが必要ではないかといった提案がなされました。

簡単ではございますが、以上、第1回くらしの安全・安心部会の報告とさせていただきます。

○三木議長

ありがとうございます。

続きまして、こどもの未来部会から森本委員より報告をお願いいたします。

○森本委員

ご指名ですので、どうぞよろしくをお願いいたします。当日も来ていただきましたこどもの未来部会の皆様方、どうもありがとうございました。

簡単にですが、当日の話をご報告させていただきます。今日いただいております要約

ということもありますけれども、そこも参考にはなさっていただきながら聞いていただけたらと思っています。

1点目、一番大きくやっぱり話が出たのは、学校再編に伴う環境整備のことについての意見が多く出ていました。ここについては具体のところは、学校が再編されて通学路が伸びてしまったということの中で、小学校区の中、PTAとか町会とかいろんな組織が関わってるので、なかなか全体を見通して見守ることができなくて、とてもやっぱりつらいし、こどものことを思うと心配になるのだというのが骨子の意見でした。なんですけれども、そこに併せて、町会のこととかPTAとか学校とか、それぞれに動いている、なかなかまとめる仕組みがないので、どこか何かうまくまとめていただくことができないかというようなことが出ていました。もともと防犯協会がスタートしていたので、まち協も含めて皆さんで話が出ていくといいですねというようなことがあるということと、もう一つは、区役所のほうから、大阪市通学路安全プログラムというのがあるので、そのことについては、ぜひ活用していきたいのだということのご意見もいただきました。

2つ目は、学校再編が始まってなんですけれども、それを含めて今、既に新たに再編がなされたというところがあるので、その再編なされた後で、振り返ってそのことがどうだったのかなというような話ができる場があれば、また課題を次の展開にしていくことができるんじゃないかという意見も出ていました。それと、先ほどご報告をいただきました、いくの未来塾というようなことなんですけれども、大事にされているのは当事者の声ではないかということで、いくの塾、未来塾に来ているこどもたちの意見を聞いていくということが大事なんじゃないかと。既にアンケートも取っていただいているみたいなんですけれども、やっぱりなかなかこどもたちの声、即私たちが聞こえるってということがないので、まずは主人公のこどもの意見を聞きたい。そういう意味では、学校再編も含めて、新しい学校になってどうだったのかというようなこともこどもたちの意見が聞けると、また私たちに見えないものが見えてくるということがあるのかなってということの意見も出されました。

そんな中で、こどもたちの声も確認していきたいんですけども、未来を生き抜く力の育成というようなことが出てるんですけども、生き抜くんじゃなくて生き合う生野区にしませんかという意見も出ていました。その中には、こどもの未来なんだけれども、こどもだけじゃなくて保護者の方の居場所とか親の居場所、そんなものも一緒に考えていくということが必要なんじゃないかなってことが出ていました。

最終的には、そのことを含めてですけれども、地域での親の居場所にもなったこども食堂とかで、様々に地域の課題を聞き取ったりしていただいている方も随分いらっしゃると思います。そんなことの中で、自分たちだけでは課題解決になっていけないということもあるので、地域の大人もカウンセリングを学ぶとか、相談していく場所があればいいなというようなことで、非常にこどもの未来部会では、こどもたちのことを思う切実な思い、心配だとか、どうしていったらいいのかっていうようなことを自分たちでも考えるけれども、それこそ公民一緒にと、地域連携も含めてですけれども、区も一緒に考えていただけたらいいなという声が出ていました。

雑駁ですけども、ざっと報告とさせていただきます。ありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございます。

続きまして、まちの未来部会から山納委員より報告願います。

○山納委員

山納です。よろしくお願いいたします。

区役所のほうできちんとした表にまとめていただいたんですが、それを使わないで、お手元に配らせていただいた僕の作成メモというのを見ていただけたらと思います。どうも温度感が伝わらない感じがするので、どんな話合いをしたのか見てみたいと思います。

今日もお話しいただいた、この1年間区役所が何をされてきたかっていうご説明をいただいた後、じゃあ、皆さん話をしましょう、これはさておき、自分が特に関心のあること、これからの生野区の未来に対して必要なことってなんだろうっていうことを自由にしゃべってくださいとお話をしたら、皆さんが大分しゃべっていただいたのがこのメモになります。

今日まだ来られていない廣川さんは、いろいろとまちのものづくりを生かしていこうという話、空き家の話などをしていただいたんですが、自分自身が空き家を再生させてカフェを運営していると。そこで、いくの長屋大学という、多世代教育、多世代交流の場をつくっているというお話をされていました。この空き家に関して、負の遺産と思われているものをどうやってうまく活用していくのか、そこが課題ですねっていうことをおっしゃっていました。

永松さんからは、生野銀座商店街のお話をいただきました。最近、ベトナム、ネパール、アジアの人が増えてきていると。お店ができて、食材店ができたり飲食店ができていたりしている。すごく外国の人が増えてきている中で、どのように交流していったらいいのか。若い人も多いので、うまく交流していけたらいいのになんていうお話をいただきました。多分僕がここで茶々を入れたというんでしょうか、最近、鶴橋のほうですね、疎開道路の辺りとかすごいお店が増えてきてますよね。あれはあれでまた違う、にぎわってるとも言えるし、実は地元との交流がない、それは課題だよねっていう意見が出たりしていました。自分でしゃべったことはなかなか議事録に書けないので、ちょっと飛んでいますけれども、そんな話もありました。

川本さん、部会長から評価の基準というのはいどこにあるんだろう。こういうことをやったという報告はいただいているけれど、それがうまくいってる、いってないっていうことはどう判断すればいいんだろうということをお願いしたりしました。そこからオンデマンドバスの話に話が転がりまして、オンデマンドバスが熱かったですね、この会は。いろいろと、オンデマンドバスは知らないっていう意見もあったり、乗ってない、使い方が分からないっていう意見があります。ということもあったり、乗るための動機づけとか、どこに行くっていう動線に乗ってないと乗らないよね、それじゃあ、どうやってつくっていかうとか、いっそオンデマンドバスイベントみたいなのをやったらいいんじゃないかみたいなことが話としては上がって

いました。

それ以外にも、宮崎さんからはかなり網羅的にいろんなことを、今こうなってますということをお話をいただいたりしました。

廣川さんから、まちの発信を区から民間に橋渡しする仕組みが要るな。動きたい若い世帯っていますよってという話いただいたりしています。

そして、今日欠席ですか、岸村さんからは大分味なことをいろいろお話をいただいています。学校の統廃合というものも、そこで生まれたロケーションというのは、それがなかったら獲得するのが難しい、可能性を秘めた資源と捉えてみるといいんじゃないかというお話をいただいたり、煩わしいことなのか面白いことなのかは見方次第であると。あつれきを生むこともあるけれど、彩りを生むということもある。そんなことをおっしゃっていただいたり、オンデマンドバスっていうのはもうちょっとやりようがあったんじゃないかという持論をとうとうとお話をいただいたりしますね。動物だったらいいんじゃないかと。これ大阪メトロさんの事業なので、こう言うたからそうなるっていうもんでもないんだろうとは思いますが、そうですね、地域の人たちに対する利便性というものを考えて、事業構築していくということはやっていただきたいというお話があったかと思います。もう一つ、岸村さんのお話の中で下のほうにあります、地域で土地の寄贈を受けて、そこを公園化するという取組をした。農地から地域の畑になった。土地の改良から何からやってくれた人たちがいて、一人一人の意識の中に助け合いの姿があったと。そこで青空カフェというのをやっています。広場でしゃべる、コロナの時期なので集まらない、オープンエアなところでしゃべる。行事っていうことをするのではなくて、風景をつくる。そんなことをやっていった。そこに居場所とか持ち場とかを見いだしていく、こんなことが我々にはできるのではないかということをお話をいただいたりいたしました。

最後のページで見てみたいと思います。永松さんからは、お子さんが2人いて、市内初の義務教育学校になった生野未来学園に通っていると。ここがとっても面白い。広くて大きくて、いろんな新しい取組をされているということをお話しいただいたり、生野を文教地区にというお話ありますが、障がいがある人も多く暮らしているので、インクルーシブなまちとして生野区を売り込んでいただけたらと考えていますとお話をいただきました。

オブザーバーとして参加いただいた大藤さんからいただいたのは、みんなで雑談ができる場があればいいなというお話をいただいたり、森本さんからは、課題が資源に変わっていくという流れが面白かった。ピンチはチャンス、課題は祝福。よりよく変わるための力を秘めている。こんなトーンの議論だったんですね。

最後に、川本部会長のほうから、全て行政、役所にお任せするのではなく、自分たちの力でつながっていく。私たち自身が行政とつないでいこうというお話をいただいていたいました。

これ後ほどの議論にも関わってくると思うんですけど、区政会議というのは一体何なのかというんでしょうか。我々は区政に対して何ができるのかっていうことを、改めて考えてみたいなど。今回の部会を通じたところでございます。

こちらの資料のほうで説明をしたのは、この資料2のほう、ご提言要約というものがあって、我々がしゃべったことが編集される。その中に、その右側に、区の考え方、対応というものが書いていただいています。こういう意見に対してはこういうことをやっています、こういうことを考えています、検討していますというお話をいただいたわけですが、よくないなと思うのは、書いていただいたことではなくて、これで解決したとってしまうってということがよくないなと。この問題というのは現在進行形だし、これからもっと深刻化していくかもしれない。そういうことに対して、我々は区役所にお任せするというよりは、我々で何ができるのかということを考えていく、そういうことが三木議長からもおっしゃっていただいた、行政とのパートナーシップとは何なのかということを考える上で必要かなというふうに思いました。

僕からは以上です。

○三木議長

ありがとうございました。

ここで、事務局から少し報告があるようですので、事務局、よろしく願います。

○杉本区政推進担当課長

すみません。事務局からです。

先ほど冒頭にご紹介できませんでしたが、条例8条1項に基づく市議員として、本日、原口悠介議員もご参加いただいております。

○原口議員

こんばんは。よろしく願います。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。以上でございます。

○三木議長

ただいま区役所からの説明と、各部会からの報告がありました。

これから、委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、限られた時間で、より円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから学識委員を代表して、山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、山納委員、よろしく願います。

○山納委員

改めまして、山納でございます。よろしく願います。

今から1時間ぐらいお時間があるのでしょうかね。30人ぐらい出席いただいているので、1人2分ぐらいのお時間があるのではないかと考えています。皆さんにしゃべっていただく場として運営していきたいと思っています。部会を経たばかりということもあります。これだけの、資料2にあるようなご意見を皆さんからいただいているわけですから、この話を繰り返す必要はないかなとも思っている一方で、年間スケジュールという表を改めてよく見ていると、全体会が年に3回、部会が年2回、ですから次にこうして集まるのは10月、11月ということになるかと思っています。我々は区政に対して何ができるのかと申し上げました。ここでしっかり、

このテーマについては考えていただきたいですとか、自分たちでも考えていきたいっていうことを改めてやはり表明しておいたほうがいいのかということ、一つには思います。ここにあることを区役所にお任せする以外に、自分たちがやっていけることってあるのではないか。それはこんなことをやっていきたいというお話をいただいてもいいのかと思っています。生野区の魅力発掘というのは、花と緑のフォトコンテストをやったらそれで達成できるのかというものでは多分ない、そういうことは自分たちでこんなことをやっていきたいということを表明いただいてもとか、呼びかけていただいてもいいのかなというふうに思っています。この区政会議、年に何回かの集まる場であるからこそしっかり言うておきたいことですか、区政に対して我々は何ができるのかっていうこと、また行政とのパートナーシップ。我々もこんなことをやってますよ、こんなことをやりますよっていうようなこと、そんなことを自由に共有する、いただくような場になればというふうに思っております。1人2分ぐらいお時間がありますので、そういうことを置いていただけたらと思います、この場に。オフィシャルというのか、フォーマルな感じがしゃべりにくい、ちょっと緊張するっていう方もおられるかもしれませんが、あんまり緊張せず自由に話しただけたらと思っております。

さて、じゃあ、どなたからでもいいので、この場に意見を、できれば建設的な意見を残していただくことに協力いただければと思います。よろしく願いいたします。

いかがでしょうか。

○永松委員

まちの未来部会の永松です。私からは、この資料の中にあつた今後のビジョンの改定に向けての想定される課題の中で、ちょっと気になったことからお話しさせてもらえればと思うんですけども、デジタルトランスフォーメーションの推進と住民のQOL向上、デジタルトランスフォーメーションって何やねんと思つて、実は見ながらググったんですけども、いわゆるデジタル化ということですよ。このデジタル化を進めていく上で、私地域のほうで高齢者に対して、もう何年もスマホ教室をやってるんです。電源の入れ方からタッチの仕方からするんですが、スマホって慣れてる方は特に何の迷いもなく触ると思つてますが、タッチをするって、あの感覚から練習しないと高齢の方難しいです。さらに言えば、ちっちゃいボタンを押すときに、当たらないんですね、指が狙ったところに。なので、タッチペンを使うとか、そういう道具がちょっと必要になったりします。それとは別に、私もう一つ似たような活動をしておりまして、大阪府にITステーションという障がいのある方のデジタルへの取組というか、アクセスを底上げしようっていう機関があるんですけども、そこでボランティアもさせてもらっていて、特に身体障がいのある方のフォローにボランティアと一緒にいって、そこでネットの使い方を教えたりとかするんです。ただ、身体障がいのある方って、どうしてもその人によって違うんですけども、体の動かないパーツがあるので、独特の、パソコンであつたりスマホであつたり、そのものに、OSに機能はついてるんですけども、ボタン1つで文字を順番に入力していくとか、そういうのが組み込まれてるんですね。それを利用してするんですが、

ボタンを押すにしても、その人の身体機能によって手が震えてしまうから、連打になってしまうから入力をちょっと制限したりとか、小さいボタン、軽いボタンなら押せる人もいれば、軽いボタンだと力の加減ができないから、吹き飛ばしてしまうからしっかりしたボタンじゃないとあかん人とかいてて、本当に個別のニーズなんです。ニッチ過ぎて、やっぱり商業化ってとても難しい分野で、でも、その人に寄り添ったそのパーツっていうのをつくってあげないと、なかなかデジタルのところって突っ込んでいけないんです。そういうツールが必要な方々なのに、そこにソフト側はできてもハード側がついていかないっていうのが現状で、ただ、生野はものづくりのまちですし、収益という部分では、それ単体で収益上げていくのはとても難しいことだとは思いますが、何かしらの連携をすることでこういうことができます、技術力アピールに使っていただくとか、双方がWin-Winになる形で何かしらの連携できへんものかなっていうのは、この公民連携の推進っていうのも並べて思ったので、ぜひそういう方面でも何かつながっていくことができたかなというのは思います。

最初に高齢者のスマホの話もさせてもらいましたが、高齢者の方もやっぱり同じなんです。同じような課題を抱えていて、やっぱり年取ると操作自体が身体機能的にしんどくなってくる、見るのが難しくなってくるっていうので、そこに対応すると、どう広げていけることだと思うんですね。なので、本当にニッチなところに見えて、大きく広げていける、それを生野はベースとして、もう種としてはあるので、うまくつないでいくことができたかなっていうのはちょっと夢というか、希望というか、それはぜひ行政のほうにも後押しをしていただけると、とてもいいものができるんじゃないかなとちょっと思ったりしています。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。DXの推進っていうことを、より何でしょう、具体的に解像度を上げて考えると、お年寄りのDXって何、障がい者のDXって何っていうお話をいただいたのかなと思いました。ありがとうございます。

では、次々参りましょう。2分と言いましたが、頑張っって早口でしゃべらなくてもいいですよ。

○廣川委員

まちの未来部会の廣川と申します。

皆様にちょっと質問したいんですが、今、神戸のほうにある大学の教授さんとお話ししてて、何か学生さんたち、生野に連れてきてよという話をちょっと投げかけてるんですけど、何か皆さんだったらどういうところを見せますかねって、ちょっと純粋な質問です。何かその話で思ってることで言うと、生野のまちにやっぱり動ける世代の若者がちょっと少ないのかなっていう、この学生さんたちを取り込んで何かのアクションに巻き込みながら動けたらもっともっと、発信やったりとかもその子たちもやってくれると思うし、広がるような内容が大きくなるんじゃないかなと思ってました。教授さんと知り合う機会があって、神戸なんですけど、学生さんたちがちょっと熱がないと、面白いまち紹介したってよっていうのを言われたんで、皆さんだったらどこに連れていく、観光案内するかなと思って。観光案内じゃなく

ても、俺んちでもいいよとかでもあれば、ぜひ行かせてもらいたいです。

○山納委員

ありがとうございます。皆さんに答える選択肢が増えました。神戸の学生を連れていくんだったらどこに連れていったらいいでしょうか、ぜひ教えてください。

では、いかがでしょうか。整った方からお話しいただければと思います。

○三木議長

鶴橋地域の三木です。鶴橋方面しか分かりませんので、勝山通から南については地理は分かっておりますけども、どこを見たらいいかというのは存じておりませんので、鶴橋地域でいけば、日本最古の橋と言われるつるのはしというのがございます。桃谷駅から歩いて七、八分程度だと思います。それで、そのつるのはしをご覧ください、その後、今非常に人が多くなっておりますけども、コリアタウン。もともとは御幸通商店街というところなんですけども、私ごとで申し訳ないんですけども、コリアタウンの入り口が私の自宅ありまして、土日になればどこから人がこれだけ来られるのかというぐらい、お祭りよりもにぎわってます。そういうところ、鶴橋地域であればご案内されたらいかがでしょうかと思っております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

では、いかがでしょうか。

○大藤委員

こどもの未来部会の大藤です。どうぞよろしく申し上げます。

私、異南の地域なんですけども、異南の地域でやったら面白い、こどもが喜ぶやろなっていうこととして好評やったんですけども、こどもの頭に鉢巻きを巻かせて、直接入らないようにシールドの眼鏡をかけさせて、鉢巻きに金魚すくいのポイをつけて、水鉄砲で打ち合いして遊んだんです。もしそれ2回目があれば、ぜひ学生さんを呼んであげていただけたら楽しいと思います。

ありがとうございました。

○山納委員

何となくこのコーナーが変わってしまった感じの、全て廣川さんに持っていかれた感じの、この学生をどこに連れていくか。それだけじゃないですよ、今日お話しいただくのは。いろいろな話をいただければと思っています。

○船方副議長

まちの未来部会の船方と申します。

廣川さんのご質問に答える形なんですけれども、生野区で私は、だんじりがたくさん町々にあって、それぞれ個性的な形になっているので、そのだんじり巡りと、その歴史を勉強するというのが面白いんじゃないかなというふうに思いました。以前なら、生野まつりとかで、全部のだんじりが異公園に集まって一堂に会するっていうのがあったんですけども、コロナでそれがなかったのもちょっと残念なんですけれども、それがとても見応えがあるかと思いました。

あと、私のほうからちょっとお聞きしたいんですけども、生野区の将来ビジョンの振り返りと今後の方向性ということで、関連指標で平成30年から令和3年度ま

でのパーセンテージが記載されてあるんですけども、これが年々減っていったらというのがすごく気になりまして、この減っていったら原因について、例えば原因の解析をしていったら、その突き詰めた原因に対して対策を立てて、どういった具体的な対策をしているのかというのをちょっとお聞きしたいなと思いました。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。後でお時間があったら答えていただくということにしましょうか。一旦質問として投げかけました。

○塚本委員

こどもの未来部会の塚本と申します。

生野のどこを案内すればいいかっていう話ですが、生野を案内して回っておられる、いくのもりの木村さんがいらっしゃるの、その方が、私も1日、2日かな一緒に解説を聞いて回って、いろいろなところの神社で、いろんな昔からの流れ、歴史とか全てご存じの研究家でいらっしゃるの、それをお聞きになられたら参考になるかと思えます。

私からの意見なんです、区政会議委員をさせていただいて、1期目は安全・安心部会をさせていただいて、2期目、今回はこどもの未来部会ということにさせていただいてるんですけど、先ほど区役所の方から令和3年度の振り返りということで、防災マップとか防犯カメラとか、いろいろ成果があって、防災マップも私も質問させていただいて、家で必ず貼りたいような魅力ある防災マップを検討していただきたいとか、防犯カメラがどれくらい増えていくんですかとか質問させていただいて、今日振り返りの中ですごく見やすいマップとか、やっぱり区政会議委員として、いろいろ気にかけてた部分が区役所さんのご努力でちゃんとできてるなというふうに、何かすごく感動して聞いておりましたけど、やはり区政会議委員としてはいろんな立場からいろんな関心を示して、区役所の方と一緒に意見伝えていくということが非常に重要だというふうに思っておりますので、区政会議委員というのはご存じのとおり、大阪市の条例で決められたポジションなわけですから、やはり一般の陳情の、住民の人たちとはやっぱりちょっと違うことになっておりますから、区役所の皆さんもこれからは部会とか、こういう会に出てきた意見に対して、これからはいろいろ重点的に捉えていただければというふうに思っていますので、やはり部会が終わった次の部会では、実は検討した結果こうでしたとかいうお話をいただければ、ああ、そうなんだというふうにまた納得もできますので、その辺、振り返りをどうするかということで、またご検討いただければというふうに思っています。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。部会であり、この全体会も含めて区政をつくっていく場であると。投げかけたことによって物事が進むってことも十分ある、そこをつくっていきましようというご意見をいただいたかと思えます。ありがとうございます。

では、いかがでしょうか。

○裁本委員

くらしの安全・安心部会の裁本です。よろしくお願いします。

先ほど防犯カメラというのがお話あったんですけども、防犯カメラ、大きな事故、事件があったときにニュースとか報道番組で見ることがあるんですけども、その防犯カメラ、普段はどういうふうを活用されているのか。それをお聞きしたいんですが。

○山納委員

ありがとうございます。これはどうでしょうかね。誰が答えを知ってるんですけど。これは区役所の方になる。

○宮崎委員

防犯カメラはほとんど、うちの地域もかなり入ってますけど、もう警察ばかりで、警察が必ず、しょっちゅう防犯カメラのデータを見せてくれ言うて来てますわ。僕ら地域のもんも見ることはできるようにはしてますけど、まだ見たことはありません。けんかがあったとか、物がとられたとか、誰かが逃げた、何かあるんやろかね。警察も何か守秘義務で1個も言うてくれへんけど、防犯のあれを貸してください言うて、よう来はりますよ。何も生野署だけ違いますねん。ほかの署からも来はりますわ。それ以外に地域であるデータを活用してるんは、あんまり聞いたことありません。

○山納委員

引き続きいろいろお話しただいても。

○宮崎委員

引き続きって言われたから、ここにずっと書いてることで、僕の、外国人住民が地区区内、地域コミュニティーに参加しやすくするための環境づくりを行う必要があるって書いてあんねんね。これはもう痛切に思うんですわ。その割合が増えてきて、ほんで、コミュニティーに入ってくないと、町会費も払わないというんじゃないくて、何とかこの外国人住民が区内、地域コミュニティーに参加しやすくするための環境づくりっていうのは、今生野区のまちセンってやってはる人おられますわね。あの人らが何とかしてくれるんか、人に言うてたらあかんねやろけど、何かそういうふうな交流ね、考えていかんと、言うたら何やけど、そういう人の数が増えてるんやから、そういう人と交流して、特にイベントですね。盆踊りとか地域の祭りとか、最近やったら生野区もまた生野まつりやりますわね。そういうところに何とか地域に住んでる外国の人と一緒に参加してもらえる方法っていうのを、探してみたら、探してほしいなと思いますね。

○山納委員

ありがとうございます。この多文化共生ですね。外国の人がすごく増えてきている。そんな中で、どうやって参加していただくか、交流していくか。皆さん、ぜひ頭に置いていただけたら、いいアイデアがあったらお話しいただければと思います。ありがとうございます。

○松村安心まちづくり担当課長

防犯カメラについてちょっと補足させていただきます。基本、防犯カメラは、我々

区役所が設置してます、いわゆる未然防止ということ、防犯カメラをつけることによって、犯罪抑止をとということ。一応それをつけてることが効果があるということになってます。そのカメラで撮った情報は個人情報になりますので、なかなかそれを何かに使うというのは普段はしてません。基本設置することで、犯罪を防ぐという形の設置の役目になっているところがございます。宮崎委員のおっしゃられたとおり、我々区役所が設置したカメラも、ほぼ毎日のように警察署が捜査で使用したいということで、照会に来られて使用していると。それで、犯罪の検挙につながるというような形になっているところがございます。

○山納委員

ありがとうございます。カメラがあること自体が抑止力になるということでございますね。ありがとうございます。

そろそろ皆さん、時間も経ってきたし、何をしゃべろうかイメージできてきたのではないかと思います。マイク回していいですか、どっかから。そちらの角から回していただければ。

大倉委員から。

○大倉委員

大倉です。こどもの未来部会に出ました。

話合いの中で、いろいろ皆さんからいい意見が出て、新しい学校再編の中で、通学路が広がって、それをいろいろ見守っていくのに危険な場所、道も増えたりして、見守る場所も増えてってということで、先ほど森本さんが言ってくださったように、各地域地域で、この町会からは見守りの方が出せるけど、ここは出られないとかいろんなことで整わない。地域それぞれの形が違うってということについて、どこかがそれをどう進めていくかみたいな、皆さんが困っていることに対して、見守りの体制も整えてほしいし、手の足りないところには行政のほうから、そういうサポートの見守りの方がちょっと出てくださったりとか、そういう形が取れたらいいなってということで、各地域地域で、それぞれの地域のやり方で何とか見守ってるこの体制を、なかなかそれだけでもう賄い切れない、負担も大きいみたいな部分について、ぜひちゃんと形にそれが、この地域はできるけど、この地域はできないとか、そういうことではなくて、どの地域にも行き渡るような、そういう仕組みをつくってほしいっていう、すごくそれができたらいいのになっていう、行政にその後押しをしていただきたいですし、その中心となるのがその地域地域のまち協であるかもしれないけど、それを各地域任せにして終わりではなくて、学校再編、学校建てたら終わりではないので、そこに安心・安全で通えるためのものなので、今私は、こどもを小4と中3といるんですけども、小中一貫校に安心して通わせてないです。すごく不安に思ってます。それを早く改善していただきたいです。なので、その見守りの体制とか、そういう皆さんの行為に甘えて、そうやってやっていただいていることも、何かうまく負担がないような形にしていきたいですし、そこが安全に通えない、道路が整ってないっていう、信号がついてない、横断歩道がないとか、そういう声に対しても本当にずっと皆さん声を上げてくださってますので、道をちゃんと整えるっていうことはまた別の問題で、必ずしてもらわなければいけないこ

とで、ここにもこの間意見いっぱい上がってる中で、またそれをいろいろ意見出してくださいっていうことで終わってるんですけど、出しても変わってないからこうやって皆さん意見出されてるので、行政のほうで、今どこにどういう声が上がってるのかっていう、新しい通学路になった学校にはもう一度ちゃんと聞き取りなどをしていただきたいですし、その中で改善できてること、改善できてないこと、じゃあ、いつになったら改善できるのかってというようなことをちゃんとやっていっていただきたいです。またいつかやりますみたいなことではなくて、事故が起こってからでは遅いので、それと、見守りの体制をどのように取っていくかっていうことについて、すごくいい意見がたくさん出たので、それを何とか形にできるような、何か、何ですかね、話合いの委員会みたいなものができたらいいなってすごく、この間せっかく意見出たのにそのまま話し合いして終わりみたいになってしまったので、それがうまい形になったらいいなと思ってます。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。僕もこどもの未来部会、オブザーバーで参加させていただきましたけれども、学校が再編されて通学路が長くなっている、危険な場面が増えている。そういうことがもし課題としてある、それを毎日見守りで立っていただいている奇特な方、希有な方に寄っかかって何とかしてるんだったら、それはちょっとデザイン悪いですよ、なんて話をしました。それをどうやって解決するのかっていうことを、もうちょっとオープンに話し合って、建設的につくっていくってことは、お話を伺っていて必要だなと思いました。ありがとうございます。

では、お隣の方。

○加藤委員

加藤です。今、見守り隊のことでありましたけども、学校が再編されるときには通学路をちゃんとつくるというようなことを、前に役所のほうから聞いてたんですけども、実際合併したら道はできてないわ、細い道を通学路にしてるわ。広い道でもガードレールがないとか、そういう、もうこどもにとっては危ないような道ばかりが、なかなか整備されてませんわね。もう学校再編する言うて、2年か3年前から話ありましたけども、いざ開校になったらそう大して変わってないんですね。

それと、疎開道路の道の縁石ありますわね。あれが一番危ないですね。自転車はぶつかるわ、車は乗り上げるわ言うてね。あれほど危ないような縁石は、ガードレールでなかっても、何かポールの、通学路になりやすいようなポールに変えてもろうたほうがこどもも通りやすいし、一般の人も事故に遭わないと思います。

○山納委員

ありがとうございます。改めてのご意見、きっちり残していきたいと思います。ありがとうございます。

では、お願いいたします。

○池原委員

こども未来部会の池原と申します。

加藤さんが今おっしゃったように、私もその石で、自転車で、ぶつかってこけました。結構、夜真っ暗なんですよ。それでなんですけれど、気をつけて、それが

らは通ってます。

別のことなんですが、舍利寺地域のほうで、この2年間、コロナ禍で何もイベントができなかったってということで、ちょっとご案内します。今年の夏休み、7月30日土曜日、6時から舍利寺地域で、元舍利寺小学校で盆踊り大会をします。皆さん、奮ってご参加をお待ちしております。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。縁石はやはり危ないという意見をいただきました。

では、発言いただいた方を飛ばしまして、森本さんをお願いいたします。

○森本委員

はい、幾つか。1つは、外国人の人とどう出会うかっていう話があったんですけど、子育ては地域に戻ると思っていて、今、保育所、幼稚園に、外国籍のご家族、こどもたち、随分たくさん来てるかと思えます。私のほうも保育所なんですけれども、今、韓国、朝鮮の在日の方をはじめ、中国、ベトナム、フィリピン、ガーナ、ネパール、カンボジアの方かな、来てます。すごいパーセンテージなんです。それ、うちだけじゃなくて、どこの園もそうなっているかなと思います。あと、小学校も、いろいろな国の方が来たりとかっていうことがあって、その子たち、こどもたちは地域に戻るの、そのこどもたちの親子を何かうまく地域の祭りだとか、何というのかな、事にちょっと誘っていきみたいなことから、で、その仲間がまた仲間を呼ぶみたいな出会い方がうまくできたらいいかなというふうに少し思ったりします。

それと、ちょっと別件、生野区役所さんのほうがプロでしょうけど、私、大阪市こども青少年局とのずっとリンクがあるんですが、毎年、区別の就学児童数を、私たちが加盟している連盟で出してきてるんですが、今年の4月出てないんですけど、令和2年4月1日と令和3年4月1日で、区別で就学前児童数出てるんですね。大阪24区あるんですけど、この令和2年より、3年より増えた区が3つだけあるんですよ。そのうちの1つに生野区入ってるんです。増えてるんですね。令和2年、4,631人やったんですが、令和3年、4,682人で、51人増えてるんです。えらい伸び率。あと増えてるのが中央区と東住吉区で、あと全部減ってるんですね。区でいくと、大阪市内でいくと3,000人減ってるんです。でも、生野区51人増えてるんですね。ただ、去年、この令和4年4月1日の数字でない1年前なので、今年またどう推移してるか分からない。でも、私はやっぱり、子育てしやすいまちはこどもの親子呼ぶんちゃうかなっていうふうに思っているところもあります。ですので、やっぱり子育てしやすいとか、物価が安いとか、近くにスーパー行きやすいとか、あと、永松さんも言ってましたけど、障がい持ってる子も生きやすいとかっていうまちは、すごく私は生きるのに魅力的だと思ってます。

あと、ついでにもう一つだけ、これは私の大学院時代の夢だったんですが、ずっと思ってるんですけど、平野川がずっとありますよね。この平野川を遊歩道を造られへんかなってずっと思う。何か平野川のところに遊歩道で、ほんなら何か高齢者の人とかが安心して歩けるとか、そんなん無理ですけどね。

それに合わせて、平野川、それできれいにするためには、EM菌だんご投げると

か、何かでちょっと、三面張りほんまは外したほうがいいんですけど、それはまた課題があるので。川を活性化してきれいにするとか、そういう生野区、川から再生するみたいなんと合わせて、ものづくりのまちなので、城東のほうでスタートするのは城見橋かな、で、東住吉のほう行ったら、橋の名前が今調べてんけど、忘れたんですがずらっと調べたもんあります。この橋の上で、ちょっと警察にご理解いただかなあかん、どっか1日橋の上バザールとかいって。橋の上でそこの近くの、売りを、田島やったら眼鏡レンズとかね。何かのヘップサンダルとかね、何かそういう、お橋バザールとか言うて、遊歩道とバザールを、何か考えるとかっていうのは夢なんですけど、できたら面白いかななんて思ったこともあります。

ということで、いろいろ言いましたが、以上です。

○山納委員

ありがとうございます。この夢を語る区政会議っていうのがいいですね。

いろんなことをおっしゃっていただいたと思います。実は、こどもたち、多国籍のこどもたちが園にはいる、その親子を軸にしてコミュニティつくっていくというようなことの可能性。就学児童数が実は増えていきますっていう話ですとか、遊歩道を平野川にという。これを言うとかんとね、誰もイメージできないですから、こういうのも置いていくというお話。橋の上でバザールというような夢を語っていただきました。ありがとうございます。

○廣川委員

すみません、度々。

何か外国籍の人が多いうていうので、リサイクルショップと食品の販売しているところに乗り込んでっていうか、ずっと海外回ってたんで、行ったことあるよみたいな感じで入ってって、声かけしたら結構フレンドリーやったんで、もし交流会、本当にやるってなったら、人を集めれそうなんで、また何か言ってください。やりましょう。そこからどんどん入って集めるんで。

○山納委員

交流会やりますか。やりましょうか。

○廣川委員

やりましょう。ほんだら声かけしときます。

ある程度人数集まったら、窓口教えてください。

○山納委員

ありがとうございます。

お待たせいたしました。北口さん、お願いいたします。

○北口（英）委員

こんばんは。まちの未来部会の北口と申します。

前はオンラインで参加させていただきまして、なぜか2時間パソコンの画面で自分の顔見てるというバツゲームさせていただきましたけども、今のこのオンラインのほうでちょっと一言。別に悪い意味じゃなくて、今後もし、コロナもありますけども、以後何かで家にはいてるんだけども、ちょっとここに来れないというケースも、それはもちろんあると思うんで、もしこのオンラインの会議がもしうまいこ

とできるのであれば、参加率ももうちょっと上げれると思うんですよ。前回、僕思ったのが、言うたらパソコンで自分の顔しか映ってない、できたら全体が映っておれば、例えばどの方が話してはる、この人が話してるの分かるんですけども、ずっと同じ画面を見てると、音声途中で途切れるとなってくると、話も全く分からないという。で、最後の最後に、僕のほうに話、意見求められたときに、すみません、脈絡が全く分かりませんという意味がそういう意味だったんで、これのちょっと、音声の問題もありますけども、できればもうちょっと全体が、自分の顔が映るよりも全体が映るようなほうにしてもらうたら、このオンライン参加した方には分かりやすくいいのかなとは思いますが。オンラインについてはそれだけです。

あともう一つ、うちの巽東地区でも言うたら、ある意味高齢化がすさまじくて、どう言ったらいいんですかね、元気だけでも病院に行かないという人もようさんいてはるんですが、先日、そういった方が救急車で運ばれて、一人は僕の同級生だったんですが、たまたま話聞いてたら、介護認定も何も受けてないということやから、介護認定受けとき言うてやったんですが、残念ながら、もう3日後に亡くなってしまったという形になってしまったんですが、そういう方も多々おられると思うんで、意外と皆元気ようやってはるけども、介護認定も受けず元気よくやってはるおかげで、万が一やったら助けができないという可能性もあると思うんですよ。そういった方を何とか、元気な時分はいいんですけども、例えば何かこけてけがしたとかあったきに介護認定をすぐに受けれるような状況、もしくは元気なうちでもちょっとそういうふうなところに連れていく言うたら話おかしいですけども、そういうふうな形でフォローできるような状況を何とか構築できないかなというのが、ちょっと僕の意見として挙げさせていただきました。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。支援とつながってない人をきっちりとつなげていくということですね。ありがとうございます。

では、古本さん、お願いいたします。

○古本委員

まちの未来部会の古本です。よろしく申し上げます。

先ほど、ちょっと出ておりました防犯カメラの話なんですけど、私どもで一番初めにつけたんは、ロート製薬の裏から公園を目がけるような感じで取り付けしました。

それは、ロート製薬さんからちょっと苦情があって、生野まつりが開かれたときに、ここ2年ほどコロナの関係で中止いうか開いてないんですけど。巽公園で、私が住んでいるちょうど地域になってるんですけど。生野まつり、ちょうどロート製薬の裏で開いてるんですけどね。どうしても、やっぱり空き缶とか空き瓶をロート製薬に、今は工事して裏、ちょっとはきれいになってるんですけどね。レンガブロックの積み上げみたいな、ちょうど2mぐらいかな、高さにしたら。生野まつりのとき、今後もそういう公園でされるときにちょっと注意して防犯のほうを見とかないかんなどと思ってるんですけどね。すぐ塀の中へぼんぼんと放りよるんよね、空き缶とか。ロート製薬さんから苦情があって、何ていうのかな、生野区のところへちょっと苦情があったもんですから、私の耳に入って、防犯カメラを取り付けると

ということになったんですけど。

それともう一つは、生野まつりになりますと、トイレがやっぱり少ないいうんですかね。男子のほうは速いもんですからいい。女性のほうがもうものすごい列が並んで、もういよいよ我慢できへんのかして、ちょっとまたそれも苦情があったわね。ガレージを持っておられる車と車の間に女の子が座って、四、五人の女の子が見えんように取り囲んだような、カバーしたような形でね。ほんでそやけど、古本さん、ちょっと文句言いに行っちゃってよっていうて、車と車の間でトイレしとるもんやから困んねんいうて。それと、だんじりが出たりするとどうしてもやっぱりそっちのほう夢中になって、男の人も我慢できんへんのかして、立ちしょんいうか、そういうのあって、ああいうのをね、ちょっとトイレの数、今度、生野まつり、また今年は形変えてするようなことも聞いてますんでね、もしそういう場所を使うのであれば、巽公園使うということであれば、またそういったことも注意しとかないかんのちゃうかないうように思いました。

それと、先ほどちょっと、私どものテーマの中で少子化、少子高齢化というような話の話題もあったんですけど、どうしてもやっぱり若い人、結婚せいへんままに、それが、最近、特に我々のこの年代のことと思うと少ないんちゃうんかなと思うたりしてね、どうしても少ないなと。人口が生野区では若干増えぎみやとかいう話も聞くんですけどね、それはやっぱり外国人の方が増えてきてるいうか、ちょうどうちの地域に外国人の方の学校があるんですよ。そやから、そこものすごい人数が、外国人の方ばかりが来てますわ。そやから、学校があるもんやから増えてるんちゃうんかなと。実際は、人口そのものは減ってるというような、僕の解釈ですけどね。一応、それぐらいで。

○山納委員

ありがとうございます。祭りの影にこういう問題もあるということ。仮設のトイレなんかを確保するみたいなことでしょうか。そういうことも考えていく必要がありますと、こういうご意見でした。

それでは、よろしいでしょうか、川本委員。

○川本委員

僕が言うと長くなるのでやめますよ。基本的にしゃべりなんですよ。ほいで、しゃべらんと口が腐るんですよ。だから、できたら来年からこの席やなしに、そっちの席をお願いします。

○山納委員

今日は時間調整に協力いただいた感じですね。

○三木議長

くらしの安全・安心部会の三木と申します。

ちょっとした情報提供なんですけども、今日、鶴橋小学校のほうから、明日から小学生、教育委員会からの連絡もあり、マスクは外すと。熱中症対策で、明日以降、小学生についてはマスクは外れますので、小学生をお持ちのご家庭の父兄の方はもう重々承知されておられると思いますけども、そういう連絡を受けております。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。

先ほど船方委員にはお話しいただいたんですが、さっきの船方委員の質問を置き去りにしていたのが気になっていて、ここで一回答えていただいていた方がいいでしょうか。

この将来ビジョンのパーセンテージが減っていることに関して。

○杉本区政推進担当課長

資料3の将来ビジョンのこの振り返りです。例えば、3ページの下に関連指標というのがございます。次のページも、5ページとか、それぞれ関連指標が載ってございます。

この指標を見ていくと、先ほどもおっしゃったように下がりぎみであるというところで、我々も、これ何から取ってるかというところ、これ区民アンケートといたしまして、区民の方1,300名の方を無作為で抽出して、大体500名ぐらいですかね、4割ぐらいの方に回答いただいているんですけども、中身によっては本当に大きく下がったり、途中で上がったけどまた下がったりとか、最近ちょっと下がりぎみということで。もちろんこれは我々としても課題と認識しておりまして、この区民アンケートの内容について、詳細についてはホームページで報告書ということで分析したものを公開してございます。性別とか、あと年齢別とか、そういった形で分析はしておりまして、数%の変動もありますけど、大きく、例えば5ページでございましたら、関連指標でいうと、30年度は88.1%だったのが、令和3年度は54%ということで、結構、20%以上、30%ですかね、下がったりしておりますので、この辺りは我々も非常にどういうことかというところで振り返りをしているところなんですけども。関係するのが、コロナ禍でいろいろ事業が対面でできなかったというところも一つの原因かなというふうに所管の担当とも話をしておりまして、これから、コロナ禍でもきちんとそういう、例えばこの場合でしたら、地域の安全の意識ですね、その辺りをどういうふうに伝えていくかとか、どういう取組をちゃんと地域の方に、区民の方に伝えるかというところが課題かなということで分析をして、次の取組に反映していきたいということで。毎年、これは区の運営方針ということで振り返りをし、翌年度につなげていくというような取組をしておりますので、この辺りを重く受け止めまして、取り組んでいきたいと思っております。

○山納委員

ありがとうございました。

それでは、橋野さん、お願いしてよろしいでしょうか。

○橋野委員

安全・安心部会の橋野です。

オンデマンドバス、最近、数増えてるのは分かるんですけども、目的地から帰られるときっていうのか、ほとんど乗っておられないと思うんですね。それで、バス停がほとんど停車位置になってますよね。だから、もしもバス停に人がいてはったら、どこまで行くのみたいな声をかけていただいて、簡単に乗れるような方式ができたらいいのかなと思ってんですけども、いかがでしょうか。直接、役所ではないんですけどね、メトロの関係ですけども。

○山納委員

そういうご意見を残しておきたいと思います。ありがとうございます。

では、小出さん、お願いできますでしょうか。

○小出委員

くらしの安全・安心部会の小出です。

安全・安心部会のほうの会議で、地震対策とか地図とかの、外国人の方の多言語化を検討していただくとあったんですけど、もう最近、テレビとか新聞とかでもあちこちで地震があるので、もう明日来るかもしれない、あさってかも、それがもういつか分からないので、できるだけ早くそういうのを作成していただくようお願いしたいです。

それと、私ごとなんですけど、林寺盆踊り大会が、8月6日土曜日に6時開会で、河内音頭、永田充康さん一座さんが出演で開催しますので、元林寺小学校でしますので、ぜひよろしければお越しください。

○川中委員

くらしの安全・安心部会の川中でございます。

今後の方向性というところで、地域活動や地域の様々な社会活動の担い手をどう育てていくのかという視点は、より思い切ってしっかりと位置づけていく、あるいは、共に考えていく必要があるのではないかと拝見して思いました。

例えばということですが、小学生・中学生・高校生世代の若者が、地域で様々なプロジェクト活動をしていくことを推進する、あるいは、サポートするような仕組みを考えると、あるいは、今、区政会議、ここで行われていますけれども、その若者版みたいなものをつくって、若者協議会みたいな形で、若者から見える区政の今後の方向性を提案してもらおうとか、そういったような仕組みも、今後検討していったらどうかということを一言添えさせていただきます。

○山納委員

ありがとうございます。

では、次に行きまして、柴田さんをお願いできますでしょうか。

○柴田委員

安全・安心部会の柴田です。

ごめんなさい、5月31日の会議、僕ちょっと用事があったって、出席させていただいてないんですけど、こちらのほうでちょっと読まさせていただいて、高齢者独り住まいの健康状態とか生活状態の確認、安全確認とかあったんですけど、僕の地域、異地域では、この前の状態、高齢者ご夫婦2人でお住まいの方のある女性部からの意見なんですけども、旦那が家に引き籠もって全く出てこない。何とかこの旦那を外に出るような企画をやっていただけないかっていう提案をいただいて、去年ぐらいから、地域でちょっと考えてやらさせていただきました。何とか、その高齢者の、こういう一人になったときの方の予備軍みたいな方を、何とか、ならないように連れ出すのはどうしたらいいかっていうのを考えて、まず、僕自身がスポーツ推進委員でもあるので、ハイキング、歩こう会はどうだろうかというので、一つの意見と出て、あとはふれあい喫茶とかで出てきたらどうかって。ほんで、ふ

れあい喫茶のほうの男性のほうの出席率っていうのを一度確認させていただいたら、うちの地域だけなんですけど、確認できたのは。男性の数は非常に少ないと、出席率が。男性一人だけ引っ張ってくるのは針のむしろであろうみたいな感じで言われたんで、それなら歩こう会のほうがましじゃないかというので、4月に第1回の歩こう会のほうを実践させていただきました。

ちょっとここで、他の地域の方に訪ねたいんですけども、男性の方のそういったイベントの出席率、地域活動いうのはどんな感じなんだろうかというのをふと思った次第でございます。他の方はどんな感じで引っ張ってきていただいているんだろうか。

1回引っ張ってきていただいたら、どんな感じかっていうのが分かって、次回につなげていけるような、他のイベントとかも考えられるんでなかろうかと思うんですけども。ちょっと訪ねてみたいなと思って、質問させていただきたいと思えます。

○山納委員

ありがとうございます。男性にどうやってイベントに参加していただけるか、時間も限られているので、もしお一人か、二人ありましたら。あまりうまくいっていない、出てきてもらえていないっていう感じなんではないでしょうか。ありませんか、こうすれば大丈夫ですよっていうものが。

○船方副議長

私、北鶴橋地域なんですけれども、ちょっと行事とかがいろいろなかったんですが、防災訓練とか、あと、いろんなもの、地域のイベントについては、多分町会長さんがかなり頑張って声をかけてらっしゃると思うので、防災訓練のほうもかなりの男性の方いらっしゃいますので、町会長さんにもう少し後押しをお願いしたらどうかと思いました。

○山納委員

はい、これはでも、それぞれの地域の課題であろうなということが分かりました。ありがとうございます。

続きまして、北口さん、お願いいたします。

○北口（充）委員

くらしの安全・安心部会の巽東の北口です。

これが先日の部会での提言といたしまして、今までの防災訓練とは違った、コロナ禍に対応した、考慮した防災訓練の実施、それともう一つ、先ほど小出副部会長がおっしゃいましたように、外国籍の方々の多言語化の防災マップの作成ですね、この2点を取り急ぎ進めていただければなと考えております。

以上です。

○山納委員

はい、ありがとうございます。

それでは、三浦さん、お願いいたします。

○三浦委員

くらしの安全・安心部会の三浦です。よろしく申し上げます。

私は、先ほど出ました未来学園の見守り隊に4月の8日から出させていただいて、2か月ちょっと過ぎたんですけど、私は疎開道路の玉出のところまでしてるんですが、ちょっと車のことで、すごく車がね、大きな車も曲がってくるんです、あの細い道を。

なぜかという、生野中学校のほうの道路は1時間ほど通行止めにされてるんです。そのために、玉出のところしか曲がれないのかと思うんですけど、本当に20分か30分ぐらい立ってる間に、ものすごい大きな車が来て。玉出の前はちょっと空間がありますので、こどもたちは大丈夫なんですけど、本当に見ててね、自転車も、偕星高校の子たちの自転車ももう並んでね、道幅いっぱい五、六台一週に來たりとか、そういう危ないところを何遍も見てますので、できればお願いなんですけれど、あそこの道路も、玉出の道路のところも、その時間を止めて、車を止めていただけたらなど。30分でも結構なので、こどもたちが8時から8時15分、20分ぐらいの間なんですけど、その時間だけでも通らないでいてくれたら、危ないところ何遍も見てますので、また検討していただけたらと思います。

それともう一つ、私にとって、私の主人のことなんですけど、卓球をしてまして、今もう70過ぎてますけれど、舍利寺小学校の体育館で卓球をやらせていただいているんですけど、今、水曜日と金曜日、夜、廃校になってますけどさせていただいているんですが、これがまた廃校の利用でどういう形になるのかということをお聞きしたいなと思って。このまま卓球が続けられるのかどうかということは質問させていただきます。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。卓球を手短に答えていただいてもいいですか。

○松村安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の松村です。

これまで実施してました学校体育施設開放事業かと思うんですが、基本跡地でも実施できるように調整をさせていただいて、今実施しているということは、今後も新しい事業者が入られても実施できるような形になってるかと思います。ちょっと手元に、卓球が入ってるかどうか分からないですが、恐らく今までやっていた事業は、恐らくそのまま続くような形にはなっていると思います。

○山納委員

ありがとうございます。

それでは、川口さん、お願いいたします。

○川口委員

すみません、くらしの安全・安心部会の川口です。

皆さん、全部、もう見守りの方がお話しされたのでね、私も今ちょっと見守りさせていただいてるんですけど、だんだんもう年齢もいってきてますし、今見守りの方いうたら、もう全部高齢者ばかりなんです。今一貫校になりまして、こどもさんがすごく増えたんですよ、集団登校がね。ほんでちょっと車とか危ないので、ちょっと右入って、このグリーンの線に入ってるって言うても、なかなか、皆もうバス

と行ってしまうのでね。ほんで、こないだもちょっと自転車が来たんですよ。声は出すんですけど、こどもさんらは前に向かってダーツと走るから、私らもう足が悪いので追っかけられないんですよ。ほんで、もう今見守ってくれてはる人はもうほとんど高齢者なんです。若い方って今、お母さん方は皆お仕事でお忙しいので無理やと思うんですけどね、ちょっとそこのところがね、これからがちょっと不安やなっているのが、声が出てるんです。だから、ちょっとPTAのお母さん方も出られるお母さんはちょっと出てほしいなと思うんですけど。無理なお願いですけど、すみません。

○山納委員

ありがとうございます。見守りはやはり大きな課題ですね。どうやって見守ってくれる人を増やしていけるのかということなど考えていく、まさに話合いの場が要るのかもしれない。ありがとうございます。

それでは、洪さん、お願いいたします。

○洪委員

もうほとんどいろんな話が出たので、お話し何かできることって何かなくてずっと考えてたんですが、まず私は名前のおり日本人ではありません。でも、日本で生まれて育って、結婚してからは生野区に越してきました。それまでは、先ほど出てた中央区に、昔は東区でしたけれども、そこでずっと住んでいましたが、今考えてみると、時々やっぱり自分が育ったところに、大阪城も近いですし、何か行くときにやっぱりちょっと意識的に通るんですが、自分が住んでた辺りやとか、それとか友達が住んでたところに、友達がいてる気配がないんですね。だから、先ほど森本委員が言ってはりましたけれども、やっぱり地域に帰ってこないまちは、めっちゃくちや中央区おしゃれなんですけど、私からしたら遊びには行ってもいいけれども、住むにはどうなんやろうって、ちょっと改めて思いました。

自分がこどものときはこども会があって、地域の人たちと一緒に、えっと、本当に毎月何か、毎週日曜日何かやってたような、土日をしてたような気がします。だから、そうやって地域がこどもを応援してて、保護者も応援して、地域がお互いのこどもを応援してるっていうのを、改めてちょっと今お話を聞きながら思っていました。

仕事をしてたときも、やっぱり学校から家に帰るまで、家から学校に来るまでの間にも、やっぱり何人かがこどもたちは真っすぐ学校に行けず、真っすぐ家に帰れず、そしたら、そのこどもたちどうしてるかって行ったら、公園とかに行くのではなくて、その行くまでの間に、生野区はいろんな集まれる、こどもが安心して集められる場所があったんですね、あるんですね、今も。だから、すごくやっぱり地域に学校も支えられてて、こどもたちも支えてもらってた。だから、安心して、だから、そことやり取りができる学校やったと思うんですが、これだけ統廃合されると、こどもたちの居場所やとか、それぞれのところで出番がなくなってきたなって、またちょっと今見守りの方々も、こどもが増えて名前も、前やったら覚えてた子のことが覚えれなくなったり、それでも何とかいろいろみんなと知恵を出しながらこどもたちは守っていくことできるかなと思っていますが。

先ほど外国の人たちの、これも去年ちょっとあったんですが、学校の先生がその地域、学校の先生っていうのはそこに住んでるっていうことほぼないので、でも学校のこどもたち、親を支えるために地域の人、その少し安心できる人たちがいてるんじゃないかなって、それは個人的な先生のアンテナで。あるとき、その人がスリランカの大人の人、お母さんでした。私たちスリランカの言葉分らないですけども、できる限りの日本語を使って話してくれたんですね。だから、何かできるわけじゃないけれども、その人が来る、居場所がいろいろなところがあれば、またその人たちが安心をすると、どうしたらいいですかって会話ができれば、会話っていうか、日本語が通じるとかそういうことやなくて、お互い顔を見る関係になると、やっぱり次にいって、どう言うたらいいんですかね、もめること、もめるっていいますが、日本語がどうしても分からないのと、同じ私たちアジアの人間でも絶対文化が違うので、どうしてもあつれきが起こるし、それはもう仕方ない。だからこそ、歩み寄りながらっていう関係を至るところで私は生野区はできるんじゃないかなと思っていて、だから、それを、保育園、先ほど森本先生も言ってましたが、保育園、幼稚園、小、中、高、えっと高校まではあれかもしれないんですけど、連携を取って、それをコーディネートする地域の人がいればええなってちょっと思ったんです。そういうこと実際やってる人、結構いてると思うんですよ。だから、障がいを持ってこどもたちのこともそうだし、それについてとても本当に歴史を知ってやって、地域ですべて活躍してる人たちいっぱいいますし、それができひんかなとかって一つ思いました。すみません、長くなって。

オンデマンドバスの活用ですけど、私ふと思ったんですが、周遊バスみたいにしていって、生野の面白いところ巡ったらどうかなと。もう1個は、空き家カフェとかいろいろなことをやってる、面白いことやってる人たちがたくさんいてるんで、そういうところを巡るツアーをつくったらどうかなって思います。だから、廣川さんとかもそうだし、そんな人たちがいろんなところでいろんなことしてるので、そんなところ回るだけでもめちゃくちゃ面白いんですよ。それをバスで回るツアーとか歩いて回る、今まだちょっと梅雨なんで、なかなか行けへんかなと思いますけど、そういうことも、何かちょっと面白いことをやって、そこにいてる人たちが何をしているかを直に見るっていうことをしたら面白いかなと。だから、あともものづくりもそうです。何かイベントするとき絶対もう自分の会社アピールでいいんですよ。自分のやってる活動アピールの場をやって、そこに人を呼ぶ。外国の人たちも見ただけやったら分かることだってあるので。

あとそれと町会費ですが、町会費も税金と同じで、この税金が何に使われてんねん、この町会費が何に使われてるのが見える化をすると、もうちょっとましになるかなって思っています。皆さん、それぞれ思うじゃないですか、高い税金払ってね、ほんまはどこに使われてんねやろうとかって単純に思ったりするじゃないですか。でも、それがメリットがあって、地域を支えてるっていうことが具体的に分かれれば、それなりに考えるっていうか、と思いました。

神社とかも昔から、古代から朝鮮と日本との関係は本当に深いですし、つるのはし跡もそうだし、御幸森神社も弥栄神社もそうですし、とても私は本当にいろんな

人が支えてきて、それを守ってきたまちなので、それをどんどんアピールして、打って出ることを考えれば、もっと人は来るし、いいなと思っているので。すみません、長くなりました。

○山納委員

ありがとうございます。

それでは、山崎さん、お願いいたします。

○山崎委員

こども未来部会の山崎です。よろしく申し上げます。

こどもたちのこと、保護者のことといえば、やはり学校再編が一番大きな課題ではないかと思えます。学校再編により見守り隊のことや防犯カメラ、通学路のこと、通学路といっても一般の方ももちろん通るわけですから、いろんなところが改めて見直しされてると思えます。

私たちができること、行政の方ができること、できないこともあると思えます。ただ、できるように考えていくのも、ここに議員の方々も来てらっしゃるんで、いろんなところの知恵を絞ってできるようにしていきたいなど。会議のための会議ではなく、行動に移せる会議にこれからしていきたいなど。

学校再編は、こども未来部会だけじゃなくて、全部の部会に通ずるところでもあり、生野区の大きな問題だと思いますんで、これからもよろしくお願いいたします。

○山納委員

ありがとうございました。

これで一周をしたかと思えます。ということで、時間いっぱいですね。そろそろ終了とさせていただきますが、皆さんのご協力のもとに、かなりいろんな、多様な意見、要望、残していったかと思えます。

次回、このように全体で集まるのが11月、少し先になってしまいますけれども、それまで歩みを止めることなく地域のことを考えていく、地域のためにやれることをやっていく、行動していくというところに、この会議での話合いがつながっていければと願っております。

それでは、三木議長にマイクをお返しいたします。

○三木議長

山納委員、どうもありがとうございました。

それでは、本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席いただいております、歴代議長等を務められた皆様から、何かご意見等ございますでしょうか。

○多田様

巽東の多田です。学校跡地の問題ですね。学校跡地がどのように活用されるのかいうことをちょっとはっきりとしておいたほうがいいんじゃないかという。例えば、この資料2の2行目に、コロナ禍の影響で防災訓練ができていないので、学校の統廃合で以前の防災マップにある学校を使用できないのが一番問題だと。防災訓練ができないようなことを考えておられる、勘違いされているんじゃないかなと思えますので、学校跡地は、例えば地域の活動拠点でもあるし、防災拠点でもあるし、そういうことですので、学校がなくなったとはいえ地域には学校があると、そして、

防災拠点であるということ、それから、防災訓練も当然しかるべきであるということで、そして、いろんな地域の納涼大会とかいろんな地域活動も学校を使つての実施ができると、そういうことでの学校跡地の活用いうんですか、それを明確化しておかないと、地域が迷ってしまうのではないかと、この案件で認められます。それが区役所のほうではこれとこれはできますよということのはっきりと明文化して、地域に伝達していただければと思います。

それと、もう一つ、今、コリアタウンの話が出ました。区長のお話聞いてたんですけど、200万人が年間来ておるということで、非常に大きな観光資源であると思います。ただ、そのまま放っておくと、尻すぼみになっていくんじゃないかということで、観光インフラというんですか、観光客を迎えるためのトイレとかそういうのが足りないと思います。ただ、このやっとな公園にトイレができたということですけど、もう一つは疎開道路のほうに大阪市の土地がありますので、市会議員の皆さん、その辺のところも併せて、観光客を誘致して、また観光案内所をつくっていただいて、生野区内の観光地域の案内も兼ねてやっていただければ、コリアタウンだけではなく、地域全体にそういう観光資源が充足されていくんじゃないかと思っておりますので、その点よろしくお願いします。

○三木議長

ありがとうございました。

○田中様

北鶴橋連合の田中でございます。

自分は今現在、北鶴橋の町会長並びに連合町会長をさせていただいてるんですが、皆さん方、ここで発表されておられる多くの問題、もうまともに自分がいろんな問題抱えている中で、皆さん方が一緒になって考えていただいて、我々にすばらしい答えをいただけたらと思って参加させていただいております。かえって本当に自分には役に立ってるなというのがこの会議だと思っております。

また、今から30年ぐらい前に、私も生野未来わがまち会議というのをやらせてもらいました。10年先の生野区を見越して何か楽しいこと考えられませんかという大阪市からの話がありました。今さっき森本先生おっしゃったように、いろんなことを考えました。最近までいろいろまた考えておるのは、生野区には六十数か国の外国人の方がおられる中で、一編、イクリンピック、皆さん集まって、どっかで一緒に楽しいスポーツ大会ができたらな、こんなにも考えながら、また川にも船を浮かべて遊覧できたらなということも考えてたんですが、ちょっと平野川、まだ臭いが残っておりますので、船の上では無理かなと思っております。

またいろいろ皆さん方のご意見聞かせていただきましたら、また我々もぜひ応援もさせていただきたいと思っておりますし、参加もさせていただきたいと思っておりますので、またひとつよろしく願いいたします。どうもありがとうございます。

○三木議長

ありがとうございます。

あと、よろしゅうございますか。いいですか。

○新井様

すみません、一言お話しさせていただきたいんですけれども、見守り隊のことがちょっとたくさん出ていたので。

大池中学校の近くで7年ぐらいになりますけど、朝の見守り活動をしている中から見える話を少しさせていただきたいと思うんですけれども、この4月から小中一貫校大池学園として中川小学校、御幸森小学校、舎利寺小学校の一部のこどもたちが加わって、大池小学校が誕生したんですけれども、大池中学校の前を大池小の二十数名のこどもたちが通っている中を見守り活動しているんですけれども、本当にとっても元気で、毎日大きな声で挨拶を交わしてて、兄弟げんかの相談を受けたり、しりとりを突然させられたり、運動会見に来てええねんどとか、将来を語ってくれたりとか、本当に私自身もこの活動をしてまして、声をかけられるうれしさをすごく感じるようになりました。本当に皆さん心配もたくさんあると思うんですけれども、少しずつみんなが優しさを持ち寄って活動していくと、一歩進むのではないかと思います。中川地域の見守り隊のほうは、高齢とおっしゃられましたけれども、本当に温かく手厚い活動がされていると私は思っています。

○三木議長

ありがとうございました。

あと、伊藤さん、よろしいでしょうか。

○伊藤様

失礼いたします。東中川地域の伊藤でございます。

この会議、本当に建設的な意見がたくさん出てくるなという具合に思っております。この地域のこと、やはり皆さんが一番よくご存じだと思います。その中で、何が課題かどうか、こうして行きたいという希望があっても、我々は専門家ではありません。ですから、そのために区役所の方々、先生方がいらっしゃいます。その方々にこういうことはできるのか、できないのか、じゃあどうすればいいのかっていうことを提言していく会でもあるのではないかなと思っております。皆さんの熱い気持ち、今日は本当にしみじみ感じました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

皆さん、本当にご熱心なご意見をありがとうございました。改めまして、本当に皆様方のこの生野区への熱い思いを受け取らせていただきました。

私は、4月から生野区で区長を拝命して、実際にこのまちに住んで、やっぱり圧倒的にまちのことを考えて、そして、自らまちをよくする、そういう思いで実際に自ら活動されておられる個人、団体、そういう方がもう非常に多い。そして、まちのもともと持っている熱量ですね、それがすごく高いと感じています。そして、今日もいろいろな皆さんのすばらしいご意見をいただきました。

私は、これはこの会議っていうのは、本当にいろんなご要望もいただくわけで、それももちろん対応を考えて一生懸命やるわけなんですけど、区役所が要望をいただい

て、イエス、ノーでお答えすると、そういう関係ではやっぱり駄目だなと思っていて、やっぱり、やっぱりチームやと思ってるんですね、行政も含めて。それで、一緒になって少しでも前に進めることができるかっていうことを、私どもも、皆さんも一緒に考えて、ネットワークとして進んでいくという形が必要だなと、すごく思っております。

そして、今日も本当にいろいろな貴重なご意見をいただきました。今、コリアタウンが年間200万人の方が来られて、すごいポテンシャルで、そして、もう一つは2025年の万博ですね。これに世界中から人も富も、そして新技術も集まるということですので、これは今ちょっと私の、皆さんのご意見を受けての提案というか、考えていることですが、せっかく万博を契機にしまして、それに向けて、せっかく皆さんがいろいろな活動をしておられる方がおられますので、それぞれのいろいろなネットワークをつくって、そして、その万博の人も富も新技術も生野区で迎え入れて、そして迎え入れるためには安全・安心も必要ですし、そして、いろんな方に優しいまちづくりということも必要ですし、そして活性化も必要ですので、そういうことをやるネットワークをつくるプロジェクトですね、区を挙げての大きいプロジェクトを立ち上げて進めるという形にできないかなということ、今強く思った次第でございますので、これからそれを少しずつ、それも早く、小さくでも実際に始めていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きのご支援、お力添えを、ご尽力をよろしくお願いを申し上げます。本日は、貴重なご意見を本当にありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。

本日は、昨年度の生野区の取組の振り返り及び生野区将来ビジョンの振り返りと今後の方向性について、各部会からのご意見をご報告いただき、その上で議員の皆様から非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地域の皆様方に本日の会議の様子をお伝えしていただきたいと思っております。

それでは、副議長から一言お願いいたします。

○船方副議長

お疲れさまでした。本日は廣川議員の神戸の大学生をどこに連れていったらいいかという端を発して、和やかな会議を進めることができ、また、山納議員にうまく会議を回していただいて、率直に情報交換をしたり意見を語り合える場になったと思います。

私たち委員、これからも生野区のために、生野区の将来のため、区役所と共にしっかりと考えていきたいと思っておりますので、今後もどうか活発なご意見・ご発言をよろしくお願いをいたします。本日はありがとうございました。

○三木議長

それでは、最後に事務局から連絡事項があるようですので、お願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

ここで、事務局より次回の区政会議の開催についてご案内させていただきます。次回、第2回は、今年度下半期ですね、10月から11月にかけて部会と全体会の開催を予定しております。その際に、今年度の生野区の取組の中間時点での振り返り、本日少しご紹介いたしました次の新しい生野区将来ビジョンの素案の形、そして、来年度の区の取組内容の素案についてお示しして、ご意見をいただきたいと思いますと考えてございますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○三木議長

ただいま事務局より連絡がありましたように、10月頃に各部会、11月頃に全体会が予定されておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これにて本日の区政会議全体会を終了します。委員の皆様、大変お疲れさまでした。